

## ミラノが欧州の「人気都市」である理由

発行: 2020/02/10

記事提供: [バガラ & パートナーズ法律事務所 \(BAGALA & PARTNERS\)](#)

### 概要

「イタリア ビジネストrend・法規制と市場動向」は、ミラノを中心にイタリアでの事業展開に関するさまざまな情報をまとめて皆さまに紹介することを目指しています。初回は世界から見たイタリアの評価、さらに、ミラノについての基本情報とこれからの展望を考察していきます。

当チャンネルへようこそ。BizBuddy ネットワークに参加させていただき大変嬉しく思います。当チャンネルは、ミラノを中心にイタリアでの事業展開に関するさまざまな情報をまとめて皆さまに紹介することを目指しています。

さて、この情報探索の旅を始める前に、世界から見たイタリアの評価についてざっと考察してみましよう。

戦後の着実な工業化を背景に、現在イタリアの GDP (2018 年、2019 年) は世界第 8 位となっています。さらに最も重要な業種の一つである製造業と、数多くのブランド(ファッション、デザイン、食品、自動車)の国際的な成功を背景とした強い輸出志向も GDP に貢献しています。ところが、イタリアは長年、昔気質の風土である、英語が通じない、書類手続きが複雑といった理由で事業展開が難しいというイメージを持たれていました。

しかし、私はイタリアで弁護士として多数の外国企業の投資を支援してきた経験から、そうした複雑な状況は過去のものになったと言い切ることができます。

近年、海外からの対イタリア投資と多国籍企業の増加を背景に状況はがらりと変わりました。また、全世界の貿易促進機関を通じた政府の働きかけも成長を後押ししました。

このような大きな変化を如実に示す一つの実例として、「イタリアの推進力」と呼ばれるミラノが長い年月を経て大きな進歩を遂げた過程を見てみることにしましょう。

ミラノは常にアバンギャルドな町でしたが、ここ 10 年は眠ったままの時期が続いていました。世界のファッションとデザインの中心地という名声の上に胡坐をかいてしまっていたのかもしれない。しかし、今、ミラノは再び走り出し、国際的に認められた観光とビジネスのハブになりつつあります。

有名なイギリスの雑誌「Wallpaper」はミラノを「2019 年の人気都市」と評しました。

ミラノの「ルネッサンス」は 2015 年に始まりました。この年、ミラノでは「World Exposition Milan 2015 (ミラノ国際博覧会)」が開催されました。テーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを (Feeding the Planet, Energy for Life)」でした (食料をテーマにした大博覧会の開催地としてイタリア以上にふさわしい場所があるでしょうか)。ミラノ国際博覧会は 6 カ月間で 2,000 万人以上の入場者を集めました。この催しをきっかけにミラノは、これだけ多くの来場者を迎え入れ、歴史・アート・近代性の融合によって魅了できる都市として大きな注目を集めるようになりました。

巨大な博覧会会場はミラノのはずれにありました。現在は技術・研究センターや大学として全世界の人材がここに集まっています (このプロジェクトは MIND (ミラノ・イノベーション・ディストリクト) と呼ばれます)。(https://www.mindmilano.it/en/)

2019 年に独立の調査・研究機関「Scenari Immobiliari」が作成したレポートでは、海外からの不動産投資が最も多い欧州の都市としてミラノを挙げました。ミラノへの投資額は 131 億ユーロで、以下モナコ、アムステルダム、ストックホルム、ダブリン、マドリードがこれに続きます。

この素晴らしい順位のほかに、全世界でミラノの名を轟かせる要素は常に存在します。それは多くの人がよく知っているようにファッション、デザイン、アート、食事です。例えば、皆さんがファッションウィークやデザインウィークの最中にミラノを訪問する機会があれば、コスモポリタンの国際的な環境を目の当たりにするでしょう。ミラノの強みはビジネスとレジャー、疾走とくつろぎの完璧なバランスです。訪れた人は、理想的な規模を持つ一つの都市でその全てを手にするすることができます。

日本からの投資という面では、ミラノには領事館、(三菱 UFJ 銀行などの)銀行、日本商工会議所、日本人学校、文化団体といった日本の官民の機関が多数置かれていることを指摘しておかなければなりません。したがって、企業家もイタリアの支店に出向する管理職の皆さまも、ご家族を含め、快適な環境の中で日常生活を送り、他の在イタリア邦人との交流を深めることができるでしょう。

最後に覚えておいていただきたいのは、欧州の中心部に位置し、欧州の主要都市へのアクセスが良いというミラノの地理的条件です。

ミラノがどのようにしてこのような目覚ましい進歩を遂げたかを理解するためには、この何年かの間に実施された重要な改革を知ることが必要です。イタリアでは大幅な法改正が実施され、採用や雇用関係の終了、会社設立が容易になりました。また、就労ビザを短期間で取得できるようになり、外国籍の企業や居住者が銀行口座を開設しやすくなりました。こうした変化が顕著に表れている例としては、企業と労働者の関係を簡略化し、これらの関係を打ち切る際のルールを定めるために2015年に実施された労働市場の改革(いわゆる Jods Act)が挙げられます。さらに民事手続きの改革により、すべての供託物と通知のデジタル化が導入され、時間の節約が図られました。さらにイタリア国内で転居する外国人と就労する外国人には大幅な税額控除が適用されます。

ミラノはホライズン 2020 のプログラム「スマートシティ・ライトハウス」により「シェアリングシティ(Sharing Cities)」プロジェクトの実施地にも選ばれています。都市が抱える重大な環境問題に対応し、住民の日常生活を改善するために、ほぼゼロエミッションの「スマート」コミュニティを形成することがプロジェクトの目的です。

(<http://www.sharingcities.eu/sharingcities/city-profiles/milan>)

ミラノの今後について語るとすれば、次に訪れる一番大きなイベントは、ミラノがコルティナダンペッツォ(通称クイーン・オブ・ザ・ドロミーティ)とともに開催地に選ばれている2026年冬季オリンピックでしょう。すべての大規模なイベントがそうであるように、オリンピックは世界の舞台でミラノに再びスポットライトを当て、ミラノの再始動を後押しするでしょう。ミラノは再び「人気都市」になるはずですよ。

私たちの町ミラノとイタリアの新しいビジネス動向にご興味をお持ちいただければ幸いです。次回も必見のトピックスをお届けします。ぜひご覧ください。